

## 今後の交通施策について

### ●本町の概況及び交通の現状

- ・ 町の公共交通として乗合バス路線はなく、近鉄橿原線・近鉄田原本線、タクシーがある。その他、町内に乗り入れている広陵町のコミュニティバス、国保中央病院と奈良県総合リハビリテーションセンターの送迎バスが運行されている。
- ・ 田原本駅を中心とした旧市街地を取り囲むように新たに住宅地が開発され、人口密集地となっている。一方、周辺に広がる農業地域には農業集落が点在しており、近鉄線の鉄道駅から離れ、徒歩圏外にある。町中心部に比較して高齢化率が高い。
- ・ 町中心部には役場・駅、開業医や小売店舗など生活関連施設が集中する一方、大型店舗や中核的な医療機関、公共施設、観光拠点は中心部から離れた地区に点在している。

### ●これまでの交通施策

- ・ 平成 22 年 9 月～平成 30 年 6 月 乗合型デマンドタクシーももたろう号の運行
- ・ 平成 30 年 7 月～ タクシー初乗り助成制度タワラモトンタクシー

### ●本町の交通をとりまく課題点

#### ①公共交通空白地域の存在

- ・ 町の約半分の地域が徒歩圏（駅から半径 800m）から外れ、車がないと利便性に乏しい。
- ・ 高齢化・人口減少が見込まれるなか免許返納が進み、自動車利用が困難な住民が増加する。
- ・ 特に、農業地域では集落地が分散し、高齢化が進んでいることから公共交通空白地域の解消が求められる。

#### ②観光等の来訪者に対する交通サービスの提供

- ・ 観光拠点等が町中心部から離れ点在している。
- ・ 駅からの移動手段はタクシーのみであり、誰でも利用できる安価な手段、または多くの人を一度に運ぶ手段がない。
- ・ 来訪者はタワラモトンタクシーを利用できない。

#### ③タワラモトンタクシー助成制度の課題解決と財政負担

- ・ 利用券の発行枚数と利用数の乖離、一部の利用者への偏り、必要な人への発行枚数の不足等のミスマッチが生じている。

## ●住民の交通ニーズ

- ・ 50代以降に何らかの交通施策を求める方が多く、特に60代以降にタクシー利用料金の助成を求める方が多い。
- ・ タクシー利用料金の助成とバスの運行を求める方の割合は、50代以降で約6割ある。
- ・ 50代以外では、利用者負担の増加を伴う利便性向上よりも、利用者負担の減少を求める方が多い。
- ・ バス運行については、利用者負担の減少よりも利用負担が増えても利便性の向上を求める方が上回っている。それ以外の施策では利用者負担の減少を求める方が上回っている。

## ●課題等の解決策

### ①タワラモトタクシー事業の継続を図るための制度改定の検討

- ・ 限られた財源で真に必要とする人の移動を支えるために、利用券発行の要件の見直し、適正な発行枚数、利用者負担額、利用促進等について検討を行う。

### ②誰もが使える新たな移動手段の導入の検討

- ・ 予約不要の定時定路線の小型コミュニティバスの導入について検討を行う。
- ・ 公共交通空白地域でありながら観光拠点や公共施設が点在する地域に路線を設ける。
- ・ 高齢者だけでなく免許を持たない人等の移動手段に制約のある住民や来訪者に対して、新たな二次交通サービスを提供することができる。
- ・ 利用人数の減少が問題としてあるため、地域で公共交通を支えるという意識の醸成を図る必要がある。

